

調査名・調査方法記入シート

・都道府県名 _____

・調査名 _____

・調査実施年(西暦) _____年 (年度ではありません。御注意ください)

・歯科独自の調査かどうか (下線部で該当するもの1つに をつけてください)

独自 / 他の調査と併設

・調査対象 (下線部で該当するもの1つに をつけてください)

一般住民 / 歯科医院来院患者 / その他(_____)

・対象年齢層 (下線部で該当するものすべてに をつけてください)

乳児期 / 学齢期 / 成人・高齢期

・サンプリング方法 (サンプリングの方法を具体的に記入してください。もし記入が困難でしたら、報告書などの資料を添付のうえ、該当部をわかるようにしてください)

・調査対象者数 (調査対象者数とは、健診を受診したりアンケートに回答した人数ではなく、調査対象となった集団の人数のことで、受診率や回収率を計算する際の分母となる数値を示します。下記の「定義」欄に具体的な内容を記してください。困難であれば、報告書などの資料を添付のうえ、該当部をわかるようにしてください)

_____ 人 * 定義(_____)

・分析対象者数 (分析対象者数とは、健診を受診したりアンケートに回答した人数のことで、受診率や回収率を計算する際の分子となる数値を示します。)

_____ 人

・受診率(回収率) (分析対象者数 ÷ 調査対象者数 × 100 %)

_____ %

・調査方式 健診 / アンケート (下線部で該当するもの1つに をつけてください)

・健診の場合 (下線部で該当するもの1つに をつけてください)

実施場所 歯科医院 / それ以外

・アンケートの場合 (下線部で該当するもの1つに をつけてください)

配布方法 郵送 / 留置き法 / その他(_____)

回収方法 郵送 / 留置き法 / その他(_____)

～ 2枚目へ ～

チェック欄

本シートに記載した調査で調べられている指標に をつけてください。

	記号	調査項目	チェック欄
幼児期	幼-1	3歳児におけるう歯のない者の割合(市町村データ)	
	幼-2	間食としての甘味食品・飲料の摂取回数	
	幼-3	フッ化物歯面塗布	
学齢期	学-1-	12歳児における1人平均う歯数(DMF歯数)	県平均
	学-1-		市町村データ
	学-2	フッ化物配合歯磨剤の使用	
	学-3	口腔状況にあった歯口清掃法の習得	
	学-4	フッ化物洗口の実施者率	
成人・高年齢期	成-1	80歳における20歯以上の自分の歯を有する者の割合	
	成-2	80歳における一人平均現在歯数	
	成-3	60歳における24歯以上の自分の歯を有する者の割合	
	成-4	60歳における一人平均現在歯数	
	成-5	歯周炎に罹患している者(CPIコード3以上)の割合	
	成-6	定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている者の割合	
	成-7	定期的に歯科検診を受けている者の割合	
	成-8	40歳、50歳における歯間部清掃用器具を使用している者の割合	

調査結果記入シート 幼児期 - 1

3歳児におけるう歯のない者の割合：市町村データ【都道府県のみ】

本調査票は、都道府県の関係者の方のみ御回答ください。

2001（平成13）年度以降の各市町村の3歳児歯科健診結果をフロッピーディスクもしくはC D（エクセル形式等）で返信用封筒に御同封ください。

ただし、後述するように、過去のデータが8020推進財団の「地域歯科保健データバンク」に入っていない場合は、過去のデータの提供もお願いいたします。

メール（ファイル添付）でも結構です。宛先は下記にお願いいたします。

andoy@nih.go.jp（国立保健医療科学院・口腔保健部 安藤雄一）

ファイルに入れていただく項目は、下記の通りをお願いいたします。

- ・実施年度（西暦4桁）
- ・都道府県名
- ・市区町村名
- ・市区町村コード（JISコード） わからなければ入力していただくなくても結構です
- ・対象児数（人）
- ・受診児数（人）
- ・むし歯の総数（本）
- ・一人平均むし歯数
- ・むし歯有病者率
- ・むし歯の型別分類（人）：A・B・C・不詳・合計の各人数

データの有無【チェック欄】

【2001～2003年度】

年 度	データの有無
	あり： なし：x
2001	
2002	
2003	

【1981～2000年度】

年 度	データの有無	年 度	データの有無
	あり： なし：x		あり： なし：x
1989		1995	
1990		1996	
1991		1997	
1992		1998	
1993		1999	
1994		2000	

次頁に記載されている内容を御参照ください

[参考]「地域歯科保健データバンク」に収録されている全国市区町村の3歳児う蝕データ

8020 推進財団の「地域歯科保健データバンク」には、今回、御提供いただく市町村データと同じ書式の Excel ファイルが収録されています。下記 URL から直接ひらくことができますので、必要でしたら、御参照ください。

http://www.8020zaidan.or.jp/8020/data/dmf_3y_2000_municipal.xls

また、同データバンクのカテゴリ検索を用いた場合、下記にデータが収録されています。

数値データ集 > 市町村データ > 乳幼児

下図は、ファイルをデータバンク上で開いたときのイメージです。

このファイルは、以前、2001年度の厚生科学研究「歯科保健水準を系統的に評価するためのシステム構築に関する研究(主任研究者:安藤雄一)」でデータ提供をお願いし、それを整理・編集したものです。

1989年度からのデータが入っていますが、抜け落ちているところもあります。もし、貴地域のデータが抜け落ちていた場合、過去のデータの提供も併せてお願いいたします。

なお、各都道府県の平均値は、厚生労働省・母子保健課のほうで別途集計されていますので、県の平均値は記入していただく必要はありません。

No	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J				L	M	N
										あし歯有病者率	A型	B型	C型			
1	2001	北海道	札幌市	01100	15,471	12,048	17,638	1.25	22.70	1,222	1,128	244	0	2,875		
2	2001	北海道	苫小牧市	01102	1,422	1,311	2,324	1.77	26.72	247	220	75	0	712		
3	2001	北海道	小樽市	01103	1,078	927	1,528	1.84	40.12	224	127	37	0	388		
4	2001	北海道	旭川市	01204	2,240	2,622	2,872	1.57	22.26	468	224	75	0	816		
5	2001	北海道	釧路市	01205	781	678	1,028	1.82	22.50	125	108	18	0	283		
6	2001	北海道	網走市	01208	1,715	1,444	2,446	2.28	45.72	222	241	84	0	683		
7	2001	北海道	帯広市	01207	1,742	1,608	2,27	1.42	41.52	261	222	60	0	627		
8	2001	北海道	北見市	01208	1,022	724	1,748	2.12	42.52	127	122	62	0	342		
9	2001	北海道	夕張市	01209	20	71	172	2.42	50.70	21	2	?	0	22		
10	2001	北海道	旭川市	01210	722	612	1,028	1.82	22.21	122	72	11	12	222		
11	2001	北海道	網走市	01211	222	222	274	2.22	22.74	22	22	14	0	122		
12	2001	北海道	留萌市	01212	272	242	242	2.12	42.12	22	22	2	0	122		
13	2001	北海道	苫小牧市	01213	1,272	1,222	2,222	1.22	27.22	222	222	22	0	674		
14	2001	北海道	旭川市	01214	272	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	122		
15	2001	北海道	網走市	01215	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		
16	2001	北海道	釧路市	01216	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		
17	2001	北海道	帯広市	01217	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		
18	2001	北海道	釧路市	01218	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		
19	2001	北海道	旭川市	01219	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		
20	2001	北海道	帯広市	01220	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		
21	2001	北海道	釧路市	01221	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		
22	2001	北海道	帯広市	01222	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		
23	2001	北海道	帯広市	01223	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		
24	2001	北海道	帯広市	01224	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		
25	2001	北海道	帯広市	01225	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		
26	2001	北海道	帯広市	01226	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		
27	2001	北海道	帯広市	01227	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		
28	2001	北海道	帯広市	01228	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		
29	2001	北海道	帯広市	01229	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		
30	2001	北海道	帯広市	01230	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		
31	2001	北海道	帯広市	01231	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		
32	2001	北海道	帯広市	01232	222	222	222	2.22	22.22	22	22	22	0	22		

調査結果記入シート 幼児期-2

間食としての甘味食品・飲料の摂取回数

参考 健康日本 21 目標値 = 間食として甘味食品・飲料を 1 日 3 回以上飲食する習慣を持つ者の割合の減少

アンケートの質問内容が、1 日あたりの甘味食品・飲料の摂取回数に関する内容である場合のみ御記入ください。そうでない場合(たとえば「週 回」という聞き方)は、記入していただく必要はありません。

・都道府県名 _____ ・調査実施年度(西暦) _____ 年

・調査名 _____

・質問文と回答肢 (調査票の質問文と回答肢をそのまま御記入ください)

--

・結果記入欄

年齢階級 【注】	対象人数	「甘味食品・飲料を 1日3回」に該当する 人数	「甘味食品・飲料を 1日3回」に該当する 者の割合(%)	備 考

【注】年齢階級は、基本的には 5 歳区切り(たとえば 5 ~ 9 歳)としますが、特定の年齢である場合(たとえば 3 歳)はその年齢を記入してください。

調査結果記入シート 幼児期-3

フッ化物歯面塗布

参考 健康日本 21 目標 = 3 歳児までにフッ化物歯面塗布を受けたことのある者の割合の増加
(50%以上)

・都道府県名 _____ ・調査実施年度(西暦) _____ 年

・調査名 _____

国の目標値と同じ指標が用いられている場合

・質問文と回答肢 (調査票の質問文と回答肢をそのまま御記入ください)

--

・結果

年齢階級 [注]	対象人数	3歳児までにフッ化物 歯面塗布を受けたこ とのある者の人数	3歳児までにフッ化物 歯面塗布を受けたこ とのある者の割合(%)	備考

【注】 この場合、年齢は「3歳」に限定してください。これ以外の年齢(階級)である場合は、この次にある「国の目標値と異なる指標が用いられている場合」の欄に御記入ください。

国の目標値と異なる指標が用いられている場合

[幼-3]

人単位でみたフッ化物歯面塗布の実施率などについて、前頁で示した国の目標値と異なったデータが得られている場合のみ御記入ください。

・質問文と回答肢 (調査票の質問文と回答肢をそのまま御記入ください)

--

・結果

年齢階級 [注]	対象人数	フッ化物歯面 塗布を受けた 人数	フッ化物歯面 塗布を受けた 者の割合(%)	備 考

【注1】年齢階級は、基本的には5歳区切り(たとえば5～9歳)としますが、特定の年齢である場合(たとえば3歳)はその年齢を記入してください。

調査結果記入シート 学齢期1-

12歳児における1人平均う歯数(DMF歯数) :自治体の平均値

貴自治体(都道府県、政令指定都市、中核市、保健所政令市、特別区)における1985(昭和60)年度以降の12歳児DMFT(中学1年生の一人平均虫歯歯数)の平均値と対象者数を下記に御記入ください。また、そのデータソースについて、全市区町村の平均値、学校保健統計調査のうち該当するものにを御記入ください。全市区町村の平均値を把握している場合、学校保健統計調査のデータは記入していただく必要はありません。なお、特記事項がありましたら、備考欄に御記入ください。

年度 (西暦4桁)	貴自治体の 平均値	対象者数	データソース (当てはまるものにをつけてください)	備考
1985			全市区町村・学校保健統計調査	
1986			全市区町村・学校保健統計調査	
1987			全市区町村・学校保健統計調査	
1988			全市区町村・学校保健統計調査	
1989			全市区町村・学校保健統計調査	
1990			全市区町村・学校保健統計調査	
1991			全市区町村・学校保健統計調査	
1992			全市区町村・学校保健統計調査	
1993			全市区町村・学校保健統計調査	
1994			全市区町村・学校保健統計調査	
1995			全市区町村・学校保健統計調査	
1996			全市区町村・学校保健統計調査	
1997			全市区町村・学校保健統計調査	
1998			全市区町村・学校保健統計調査	
1999			全市区町村・学校保健統計調査	
2000			全市区町村・学校保健統計調査	
2001			全市区町村・学校保健統計調査	
2002			全市区町村・学校保健統計調査	
2003			全市区町村・学校保健統計調査	

調査結果記入シート 学齢期1-

12歳児における1人平均う歯数(DMF歯数):市町村のデータ

本調査票は、都道府県の関係者の方のみ御回答ください。

2001(平成13)年度以降の各市町村の12歳児(中学1年生)歯科健診結果をフロッピーディスクもしくはCD(エクセル形式等)で返信用封筒に御同封ください。

ただし、後述するように、過去のデータが8020推進財団の「地域歯科保健データバンク」に入っていない場合は、過去のデータの提供もお願いいたします。

メール(ファイル添付)でも結構です。宛先は下記にお願いいたします。

andoy@nih.go.jp (国立保健医療科学院・口腔保健部 安藤雄一)

ファイルに入れていただく項目は、下記の通りをお願いいたします。

- ・実施年度(西暦4桁)
- ・都道府県名
- ・市区町村名
- ・市区町村コード(JISコード) わからなければ入力していただくなくても結構です
- ・受診児数(人)
- ・う蝕有病者数(人)
- ・う蝕有病者率
- ・D歯数、M歯数、F歯数、DMF歯数の合計(本)
- ・DMFT-index

データの有無【チェック欄】

【2001～2003年度】

年 度	データの有無
	あり： なし：x
2001	
2002	
2003	

【1981～2000年度】

年 度	データの有無	年 度	データの有無
	あり： なし：x		あり： なし：x
1989		1995	
1990		1996	
1991		1997	
1992		1998	
1993		1999	
1994		2000	

次頁に記載されている内容を御参照ください

【参考】「地域歯科保健データバンク」に収録されている全国市区町村の12歳児う蝕データ

なお、同じ書式の Excel ファイルが 8020 推進財団の「地域歯科保健データバンク」に収録されていますので、必要でしたら、御参照ください。

http://www.8020zaidan.or.jp/8020/data/DMFT_12y_1989-2000_municipal.xls

右図は、ファイルをデータバンク上で開いたときのイメージです。

このファイルは、以前、2001年度の厚生科学研究「歯科保健水準を系統的に評価するためのシステム構築に関する研究(主任研究者:安藤雄一)」でデータ提供をお願いし、それを整理・編集したものです。

1989年度からのデータが入っていますが、抜け落ちていたところもあります。もし、貴地域のデータが抜け落ちていた場合、過去のデータの提供も併せてお願いいたします。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
	実施年度	都道府県名	市区町村名	市区町村コード	村総人口(人)	学級児童(人)	う蝕有病者数(人)	う蝕有病率(%)	D歯数の合計(本)	M歯数の合計(本)	F歯数の合計(本)	DMF歯数の合計(本)	DMFT index	
2554	1997	滋賀県	水口町	25363		441	328	74.36	93	3	993	1,079	2.45	
2555	1998	滋賀県	水口町	25363		440	300	68.18	76	6	909	991	2.25	
2556	1999	滋賀県	水口町	25363		434	265	61.07	66	1	724	791	1.82	
2557	2000	滋賀県	水口町	25363		425	264	62.12	72	5	688	765	1.80	
2558	1996	滋賀県	土山町	25364		138		93.46					4.20	
2559	1997	滋賀県	土山町	25364		146	123	84.25	63	2	456	521	3.57	
2560	1998	滋賀県	土山町	25364		135	120	88.89	36	3	378	417	3.09	
2561	1999	滋賀県	土山町	25364		119	88	73.95	36	8	290	334	2.81	
2562	2000	滋賀県	土山町	25364		116	80	68.97	28	4	301	333	2.87	
2563	1996	滋賀県	甲賀町	25365		186		81.72					2.75	
2564	1997	滋賀県	甲賀町	25365		168	118	71.06	57	8	324	389	2.34	
2565	1998	滋賀県	甲賀町	25365		136	90	66.16	36	9	272	317	2.33	
2566	1999	滋賀県	甲賀町	25365		135	100	73.33	30	8	248	306	2.25	
2567	2000	滋賀県	甲賀町	25365		156	96	61.54	34	13	290	307	1.97	
2568	1996	滋賀県	甲南町	25366		279		64.16					1.89	
2569	1997	滋賀県	甲南町	25366		321	188	58.57	47	1	544	592	1.84	
2570	1998	滋賀県	甲南町	25366		286	179	62.59	32	0	432	504	1.76	
2571	1999	滋賀県	甲南町	25366		285	162	56.84	41	1	379	421	1.48	
2572	2000	滋賀県	甲南町	25366		272	160	58.82	43	0	460	523	1.92	
2573	1996	滋賀県	信楽町	25367		205		77.56					3.10	
2574	1997	滋賀県	信楽町	25367		208	164	78.85	111	0	546	657	3.16	
2575	1998	滋賀県	信楽町	25367		182	145	79.67	138	6	443	587	3.23	
2576	1999	滋賀県	信楽町	25367		199	152	76.38	152	0	382	534	2.69	
2577	2000	滋賀県	信楽町	25367		168	130	78.31	65	16	377	458	2.76	
2578	1996	滋賀県	安土町	25368		166		80.12					2.91	
2579	1997	滋賀県	安土町	25368		177	162	91.53	249	17	413	679	3.84	
2580	1998	滋賀県	安土町	25368		161	126	78.26	22	3	416	441	2.74	
2581	1999	滋賀県	安土町	25368		161	119	73.91	36	5	398	439	2.73	
2582	2000	滋賀県	安土町	25368		155	122	78.71	19	2	425	448	2.88	

調査結果記入シート 学齢期-2

フッ化物配合歯磨剤の使用

参考：健康日本 21 目標 = 学齢期におけるフッ化物配合歯磨剤使用者の割合を 90%
にする

・都道府県名 _____ ・調査実施年度(西暦) _____ 年

・調査名 _____

・質問文と回答肢 (調査票の質問文と回答肢をそのまま御記入ください)

--

・フッ化物配合歯磨剤製品名記載の有無 あり / なし

質問紙にフッ化物配合歯磨剤の製品名リストを記載して回答欄に製品名を記入した場合は「あり」、そうでない場合は「なし」に をつけてください。

・結果

年齢階級 【注】	対象人数	フッ化物配合 歯磨剤使用者 数	フッ化物配合 歯磨剤使用者 率(%)	備 考 (F歯磨剤使用率の定義など)

【注】年齢階級は、20歳未満について記入してください。基本的には5歳区切り(たとえば5～9歳)としますが、特定の年齢である場合(たとえば12歳)はその年齢を記入してください。

調査結果記入シート 学齢期-3

口腔状況にあった歯口清掃法の習得

参考 健康日本 21 目標 = 学齢期において過去 1 年間に個別的歯口清掃指導を受けたことのある者の割合の増加

・都道府県名 _____ ・調査実施年度(西暦) _____ 年

・調査名 _____

・質問文と回答肢 (調査票の質問文と回答肢をそのまま御記入ください)

--

・結果

年齢階級 【注】	対象人数	「個別的口腔清掃」 に該当する人数	「個別的口腔清掃」 に該当する人数の 割合(%)	備考

【注】年齢階級は、20歳未満について記入してください。基本的には5歳区切り(たとえば5～9歳)としますが、特定の年齢である場合(たとえば12歳)はその年齢を記入してください。

調査結果記入シート 学齢期-4

フッ化物洗口の実施者率

フッ化物洗口は、健康日本 21 において明確な目標値が定められていませんが、都道府県では目標値が定められているところが多いことから、今回、調査することにしました。ここでは、フッ化物洗口を実施している人の割合に関するデータがある場合、御記入ください。

・都道府県名 _____ ・調査実施年度(西暦) _____ 年

・調査名 _____

・質問文と回答肢 (調査票の質問文と回答肢をそのまま御記入ください)

--

・フッ化物洗口の実施者率 (施設単位でみた集団応用の実施率ではありませんので、御注意ください)

以下のうち該当するものに をつけてください(1つだけ)

家庭応用のみの数値 / 集団応用のみの数値 / 家庭応用と集団応用を合わせた数値

年齢階級	対象人数	フッ化物洗口 の実施人数	フッ化物洗口 の実施者率(%)	備 考

【注】年齢階級は、基本的には5歳区切り(たとえば5～9歳)としますが、特定の年齢である場合(たとえば12歳)はその年齢を記入してください。

80歳における20歯以上の自分の歯を有する者の割合

参考 健康日本21目標 = 80歳における20歯以上の自分の歯を有する者の割合を20%以上にする

・都道府県名 _____ ・調査実施年度(西暦) _____ 年

・調査名 _____

・調査方式 口腔診査(歯科健診) / アンケート

・結果

年齢階級 【注】	対象人数	20歯以上 人数	20歯以上 率(%)	備 考

【注】

年齢階級の範囲は、70～80歳代(70～89歳)とします。

年齢の区切り方は、基本的には5歳区切り(たとえば80～84歳)とします。この場合、75～84歳の範囲の年齢階級のデータを記入してください。

年齢階級の区切りが10歳区分の場合は、70歳代と80歳代のデータを記入してください。

また、特定年齢のデータのみ得られている場合(たとえば80歳)は、その年齢のデータを記入してください。

調査結果記入シート 成人・高齢者-2

80歳における一人平均現在歯数

これは健康日本 21 の目標値ではありませんが、一人平均現在歯数は全国的に広く使われている指標であることから、「80歳における20歯以上保有者の割合」の補足データとして収集することにしました

・都道府県名 _____ ・調査実施年度(西暦) _____ 年

・調査名 _____

・調査方式 口腔診査(歯科健診) / アンケート

・結果

年齢階級 【注1】	対象人数	一人平均 現在歯数	標準偏差 【注2】	備考

【注1】

年齢階級の範囲は、70～80歳代(70～89歳)とします。

年齢の区切り方は、基本的には5歳区切り(たとえば80～84歳)とします。この場合、75～84歳の範囲の年齢階級のデータを記入してください。

年齢階級の区切りが10歳区分の場合は、70歳代と80歳代のデータを記入してください。

また、特定年齢のデータのみ得られている場合(たとえば80歳)は、その年齢を記入してください。

【注2】

データがなければ記入していただくなくて結構です。

調査結果記入シート 成人・高齢者-3

60歳における24歯以上の自分の歯を有する者の割合

参考 健康日本21目標 = 60歳における24歯以上の自分の歯を有する者の割合を50%以上にする

・都道府県名 _____ ・調査実施年度(西暦) _____ 年

・調査名 _____

・調査方式 口腔診査(歯科健診) / アンケート

・結果

年齢階級 【注】	対象人数	24歯以上 人数	24歯以上 率(%)	備考

【注】

年齢階級の範囲は、50～60歳代(50～69歳)とします。

年齢の区切り方は、基本的には5歳区切り(たとえば60～64歳)とします。この場合、65～74歳の範囲の年齢階級のデータを記入してください。

年齢階級の区切りが10歳区分の場合は、50歳代と60歳代のデータを記入してください。

また、特定年齢のデータのみ得られている場合(たとえば60歳)は、その年齢のデータを記入してください。

調査結果記入シート 成人・高齢者-4

60歳における一人平均現在歯数

これは健康日本 21 の目標値ではありませんが、一人平均現在歯数は全国的に広く使われている指標であることから、「60歳における24歯以上保有者の割合」の補足データとして収集することにしました

・都道府県名 _____ ・調査実施年度(西暦) _____ 年

・調査名 _____

・調査方式 口腔診査(歯科健診) / アンケート

・結果

年齢階級 【注1】	対象人数	一人平均 現在歯数	標準偏差 【注2】	備考

【注1】

年齢階級の範囲は、50～60歳代(50～69歳)とします。

年齢の区切り方は、基本的には5歳区切り(たとえば60～64歳)とします。この場合、65～74歳の範囲の年齢階級のデータを記入してください。

年齢階級の区切りが10歳区分の場合は、50歳代と60歳代のデータを記入してください。

また、特定年齢のデータのみ得られている場合(たとえば60歳)は、その年齢のデータを記入してください。

【注2】

データがなければ記入していただくなくて結構です。

調査結果記入シート 成人・高齢者-5

歯周炎に罹患している者の割合(CPIコード3以上)

参考 健康日本21目標 = 40、50歳における進行した歯周炎に罹患している者(4mm以上の歯周ポケットを有する者)の割合の減少

・都道府県名 _____ ・調査実施年度(西暦) _____ 年

・調査名 _____

・調査方式(CPI測定方法)# 全歯 / 部分診査(WHO準拠) / 部分診査(その他)

たとえば、1999年厚生省歯科疾患実態調査のように上下顎とも2点計測(上顎は頬側の2点、下顎は舌側の2点)で調査されている場合、「部分診査(その他)」に該当します。いわゆる部分診査の「通法」は「部分診査(WHO準拠)」に該当します。

・結果

年齢階級 【注】	対象人数	CPIコード3以上 人数	CPIコード3以上 率(%)	備考

【注】

年齢階級の範囲は、30～50歳代(30～59歳)とします。

年齢の区切り方は、基本的には5歳区切り(たとえば45～49歳)とします。この場合、35～54歳の範囲の年齢階級のデータを記入してください。

年齢階級の区切りが10歳区分の場合は、上記範囲のデータを記入してください。

また、特定年齢のデータのみ得られている場合(たとえば50歳)は、その年齢を記入してください。

調査結果記入シート 成人・高齢者-6

定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている者の割合

参考 健康日本21目標 = 定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている者の割合を増加させる

・都道府県名 _____ ・調査実施年度(西暦) _____ 年

・調査名 _____

・質問文と回答肢 (調査票の質問文と回答肢をそのまま御記入ください)

--

・結果

年齢階級	対象人数	定期的に歯石除去 や歯面清掃を 受けている人数	定期的に歯石除去 や歯面清掃を 受けている率(%)	備 考

【注】

年齢階級の範囲は、30～60歳代(30～69歳)とします。

年齢の区切り方は、基本的には5歳区切り(たとえば45～49歳)とします。この場合、35～64歳の範囲の年齢階級のデータを記入してください。

年齢階級の区切りが10歳区分の場合は、上記範囲のデータを記入してください。

また、特定年齢のデータのみ得られている場合(たとえば50歳)は、その年齢を記入してください。

調査結果記入シート 成人・高齢者-7

定期的に歯科検診を受けている者の割合

参考 健康日本 21 目標 = 定期的に歯科検診を受けている者の割合の増加(30%以上)

・都道府県名 _____ ・調査実施年度(西暦) _____ 年

・調査名 _____

・質問文と回答肢 (調査票の質問文と回答肢をそのまま御記入ください)

--

・結果

年齢階級	対象人数	定期的に歯科検診を受けている人数	定期的に歯科検診を受けている率(%)	備考

【注】

年齢階級の範囲は、30～60歳代(30～69歳)とします。

年齢の区切り方は、基本的には5歳区切り(たとえば45～49歳)とします。この場合、35～64歳の範囲の年齢階級のデータを記入してください。

年齢階級の区切りが10歳区分の場合は、上記範囲のデータを記入してください。

また、特定年齢のデータのみ得られている場合(たとえば50歳)は、その年齢を記入してください。

調査結果記入シート 成人・高齢者-8

40歳、50歳における歯間部清掃用器具〔注1〕を使用している者の割合

【注1】ここでいう「歯間清掃用器具」とは、デンタルフロスや歯間ブラシなどの歯間清掃用具全体を指します。

使用者の割合が、デンタルフロス単独あるいは歯間ブラシ単独を示して、歯間清掃用具全体の使用者の割合を示していない場合は、この調査票には回答していただくことなく結構です。

参考 健康日本21目標 = 40、50歳における歯間部清掃用器具を使用している者の割合
(それぞれ50%以上)

・都道府県名 _____ ・調査実施年度(西暦) _____ 年

・調査名 _____

・質問文と回答肢 (調査票の質問文と回答肢をそのまま御記入ください)

--

・結果

年齢階級 【注2】	対象人数	歯間部清掃用 器具〔注1〕を 使用している 人数	歯間部清掃用 器具〔注1〕を 使用している 率(%)	備 考

【注2】

年齢階級の範囲は、30～50歳代(30～59歳)とします。

年齢の区切り方は、基本的には5歳区切り(たとえば45～49歳)とします。この場合、35～54歳の範囲の年齢階級のデータを記入してください。

年齢階級の区切りが10歳区分の場合は、上記範囲のデータを記入してください。

また、特定年齢のデータのみ得られている場合(たとえば50歳)は、その年齢を記入してください。